# 西オーストラリア州の経済的側面 – 2025年3月

## 西オーストラリア州 – 経済状況

今月の経済的側面の主な更新内容は、西オーストラリア州の2024年10-12月期州最終需要の発表、オーストラリアにおける労働市場および金融政策の変化となっている。

州最終需要

西オーストラリア州内経済の伸びは2024年を通じて比較的堅調かつ安定的で、州最終需要は同年第2-4四半期各々で約1％の伸びを見せた。西オーストラリア州の州最終需要は2024年10-12月期で1.1％増加し、通年で3.7％増となった。州最終需要の構成を見ると、引き続きバランスの取れた成長を見せている。これは特に他のオーストラリア区域（ノーザンテリトリーを除く）と比較すると顕著で、家計消費と民間投資の比較的大きな貢献は成長創出の面で西オーストラリア州は公的最終需要への依存度が低いことを意味している。

労働市場

西オーストラリア州の労働市場は引き続き余剰資源に乏しく、2025年2月には失業率（3.4％）と不完全雇用率（5.6％）のいずれもが低下した。求人数は引き続き高い水準にあるものの、すべての職業群で減少傾向が続いている。雇用者増加率は比較的高い水準にあることを鑑みると、これは労働需要減少の兆候というより既存の求人案件が埋まった結果の可能性がある。雇用者の増加は各業種でみられ、2025年1-3月期までの4四半期の平均雇用者数では行政・公安（約19,500人増）および建設業（約10,800人増）が最大の伸びを見せた一方、製造業（約7,100人減）および鉱業（約5,000人減）は減少した。

労働市場は非常に逼迫しているにもかかわらず年間賃金上昇率は2024年の全四半期を通じて低下し続け、2023年12月の4.7％が2024年12月には3.3％に低下した。これは2024年12月のパースにおける年間インフレ率（2.9％）をわずかに上回っていた。

金融政策

2025年4月の会合において、オーストラリア準備銀行（RBA）理事会は政策金利目標の4.10％据置きを決定した。この決定に先立つ同年2月には2020年11月以降初の引下げとなる政策金利目標の25ベーシスポイント引下げが行われており、この決定の根拠とされたのが、基調的インフレは目標レンジ2-3％の中点値に向けて持続的に推移しているとの確信であった。一方、4月1日の政策金利目標据置き決定発表時の声明では、米国による相互関税導入および国際緊張は世界経済の動向に悪影響を及ぼす可能性があるも、インフレはいずれの方向にも推移する可能性があるとされた。4月2日の米国による新たな相互関税導入発表を受け、オーストラリアにおけるさらなる利下げに対する市場の期待は非常に高まっている。

### 経済状況 – 目次

[**経済全体**](#_Whole_of_economy)

[**州最終需要**](#_State_final_demand)

[**コモディティ価格と為替レート**](#_コモディティ価格と為替レート)

[**消費者価格と金利**](#_消費者価格と金利)

[**労働市場 – 雇用者数**](#_Labour_market_–)

[**労働市場 – 余剰資源と求人**](#_労働市場_–_余剰資源と求人)

[**労働市場 – 賃金**](#_Labour_market_–_2)

[**人口**](#_Population)

[**住宅**](#_Housing)

[**建設**](#_建設)

[**各地域の労働市場と建設**](#_Regional_economic_conditions)

[**国際貿易**](#_国際貿易)

### 経済全体

[**目次に戻る**](#_Contents)

#### 州総生産／国内総生産（推移）



Note – Chain volume measures. Original series. Annual change.

Source: Based on ABS data.

* 州総生産（GSP）は、州または準州の総経済生産を示す指標であり、国の国内総生産（GDP）に相当する。
* オーストラリアでは四半期単位でGDPを推計しているが、GSPは会計年度単位の推計値である。
* 西オーストラリア州のGSPは他の州・準州と比較すると2019‐20年の新型コロナ感染症拡大の影響が少なく、それに続く3会計年度も比較的安定した成長率で推移した。
* 2023-2024年の西オーストラリア州の成長鈍化は、鉱業および農業、林業および漁業の縮小が主因であった。金属鉱物および石油・ガス生産は悪天候や保守点検活動による中断がみられた一方、穀物生産量は過年度の豊作の反動で減少した。
* 西オーストラリア州政府が発表した2024‑25年中間財務予測では、西オーストラリア州の実質GSPは2024‑25年に2.25％、2025‑26年に2.5％成長すると予測している。

#### 項目別州最終需要（変動に対する寄与度）



Note – Chain volumes measures. Seasonally adjusted series. Quarter-on-quarter change. pp = percentage points. (a) Private gross fixed capital formation. (b) General government final consumption expenditure and public gross fixed capital formation.

Source: Based on ABS data.

* 州最終需要（SFD）は、民間および公共分野による消費と投資の総計である。西オーストラリア州ではGSPの大部分をSFDが占めており、2023-24年のGSPに占めるSFDのシェアは67％（3,058億ドル）であった。西オーストラリア州では正味輸出額が特に高いため、GSPに占めるSFDのシェアは他の州・準州に比べ低い。
* 西オーストラリア州の実質SFDは、2024年7-9月期に0.9％増となったのち、同10-12月期に1.1％増加した。
* 民間投資は2024年10-12月期のSFD成長を0.42％パーセンテージポイント押し上げる最大の貢献を見せ、家計消費は0.36％パーセンテージポイント、公的最終需要は0.27％パーセンテージポイントそれぞれSFD成長を押し上げた。
* 西オーストラリア州政府が発表した2024‑25年選挙前財務予測では、西オーストラリア州の実質SFDは2024‑25年に3.75％、2025‑26年に2.75％成長すると予測している。

#### 州最終需要の項目別州間比較（変動に対する寄与度）：2024年10‐12月期



Note – Chain volumes measures. Seasonally adjusted series. Change between the sum of the latest four quarters and the sum of the same quarters of the previous year. pp = percentage points. (a) Private gross fixed capital formation. (b) General government final consumption expenditure and public gross fixed capital formation.

Source: Based on ABS data.

* 2024年10-12月期までの1年間で西オーストラリア州の実質SFDは3.7％増加し、国内の全州・準州の中でノーザンテリトリー（4.5％）に次いで2番目に高い成長率を示した。
* 2024年7-9月期までの1年間で西オーストラリア州の実質SFD成長に貢献したのは以下の通り。
* 公的最終需要：2.0％ポイント
* 家計消費：1.0％ポイント
* 民間投資：0.6％ポイント
* 2024年10-12月期までの1年間における西オーストラリア州の実質SFD成長率に対する寄与度は以下の通り。
* 家計消費の寄与度は西オーストラリア州が最も大きく、次いでノーザンテリトリーであった。
* 民間投資の寄与度では、西オーストラリア州はノーザンテリトリーに次いで2番目に大きかった。
* 公的最終需要の寄与度では、西オーストラリア州はタスマニア州、オーストラリア首都特別地域に次いで3番目に大きかった。

### 州最終需要

[**目次に戻る**](#_Contents)

#### 項目別家計消費（変動に対する寄与度）：2024年10‐12月期



Note – Chain volume measures. Seasonal adjusted series. Change between the sum of the latest four quarters and the sum of the same quarters of the previous year. pp = percentage points.

Source: Based on ABS data.

* 2024年10-12月期までの1年間で、西オーストラリア州の家計消費は実質ベースで2.0％の伸びとなった。
* 2024年10-12月期までの1年間に、西オーストラリア州の家計消費の伸びに最も寄与したのは家賃およびその他の住居サービス輸送サービスへの支出（2.3％増）であった。それ以外でこの期間中における主な寄与因子は以下の通り。
* 輸送サービス（8.6％増）
* 保険およびその他の金融サービス（3.2％増）
* 家具および住宅設備（5.1％増）
* 2024年10-12月期までの1年間で、西オーストラリア州の家計消費を最も押し下げたのがシガレットとタバコへの支出（13.2％減）で、アルコール飲料（3.6％減）と電気・ガスおよびその他の燃料（2.6％減）がこれに続いた。

#### 項目別民間投資（変動に対する寄与度）：2024年10‐12月期



Note –. Chain volumes measures. Seasonally adjusted series. Change between the sum of the latest four quarters and the sum of the same quarters of the previous year. pp = percentage points. (a) Non‑residential buildings and other structures. (b) Transport equipment and other machinery and equipment. (c) Computer software, research and development, entertainment, literary or artistic originals, and mineral exploration. (d) Buildings or parts of buildings used as residences. (e) Fees, commissions, stamp duty and other government charges for transferring ownership of dwellings and non‑dwelling constructions. (f) Livestock and plantations of trees yielding repeat products (e.g. vineyards and orchards).

Source: Based on ABS data.

* 2024年10-12月期までの1年間における西オーストラリア州の民間投資は2.3％増となった。
* 西オーストラリア州における2024年10-12月期までの1年間に、民間投資の伸びに最も寄与したのは非居住用建物への支出（2.5％増）で、所有権移転費用への支出（13.7％増）、住居への支出（2.9％増）がこれに続いた。
* 非居住用建物（住宅以外の建物とその他の構造物）への支出がこの1年間で増加したのは、主に西オーストラリア州の鉱業およびエネルギー関連プロジェクトでの新たな土木建設への支出が増えたことによる。

#### 項目別公的最終需要（変動に対する寄与度）：2024年10‐12月期



Note – Chain volumes measures. Seasonally adjusted series. Change between the sum of the latest four quarters and the sum of the same quarters of the previous year. pp = percentage points.

Source: Based on ABS data.

* 地方・州・連邦政府の消費と投資で構成される公的最終需要は、2024年10‐12月期までの1年間に8.0％増加した。
* 2024年10-12月期までの1年間で、州の公的最終需要の増加に最も寄与したのは州・地方政府の投資への支出（17.6％増）で、州・地方政府の消費（5.2％増）がこれに続いた。
* 過去1年間で州・地方政府の投資が増えたのは、METRONETを含む大規模な道路、鉄道、公共事業への西オーストラリア州政府の投資、および公共料金の割引というかたちでの家計に対する公的扶助への支出が増えたことによる。

### コモディティ価格と為替レート

[**目次に戻る**](#_Contents)

#### 鉱産物価格（指数）



Note – Index based on current prices in US dollars. Original series. February 2024 = 100.0. (a) China spot price per dry tonne of 62% Fe fines on a cost, insurance, and freight basis. (b) London afternoon fixing price per troy ounce of 99.5% fine. (c) Asia lithium carbonate price per tonne on a cost, insurance and freight basis. (d) London Metal Exchange (LME) Cash.

Source: World Bank and S&P Global Market Intelligence.

* 西オーストラリア州の主な鉱産物の輸出価格は、過去5年間で大きく変動している。
* 鉄鉱石価格は、中国における建設活動を促進させる政策の発表やそれらに対する市場の思惑で変動する傾向にある。直近数カ月の鉄鉱石価格は1トン当たり約100米ドルで安定しており、2025年3月の月平均価格は1トン当たり100.1米ドルであった。
* リチウム価格は2022年の価格高騰期に奨励された追加供給の本格化や電気自動車の予想を下回る販売の伸びを受け大幅に下落したが、2025年3月の炭酸リチウムの月平均価格は1トン当たり9,650米ドルとなって下落は鈍化している。
* ニッケル価格はリチウム価格ほどの乱高下はみられないが同様の軌跡を描いており、2025年3月の月平均価格は1トン当たり16,159米ドルであった。
* 金は例外で、価格は金利引下げ（高利回り投資に関する競争の減少）および安全資産としての金の需要増をもたらす地政学的緊張により過去最高レベルに上昇し続けている。
* 2025年3月の金価格は、1年前を38％上回る1トロイオンス当たり2,893米ドルであった。

#### 非鉱産物価格（指数）

#### 

Note – Index based on current prices in US dollars. Original series. February 2024 = 100.0. (a) Crude oil, United Kingdom Brent price per barrel. (b) Japan liquefied natural gas import price per million British thermal units on a cost, insurance, and freight basis. (c) United States hard red winter Gulf export price per tonne.

Source: World Bank.西オーストラリア州の主要エネルギー輸出価格も過去5年間で変動しており、地政学的要因がこれらのコモディティの需給に影響を及ぼしている。

* 原油価格は2022年初頭のロシア・ウクライナ紛争の勃発により急上昇したが、世界市場が沈静化し過去1年間で比較的安定してきたことで下落した。2025年3月の原油の月平均価格は1バレル当たり72.6米ドルであった。
* LNG価格は原油価格と概ね連動しているが、2022年の世界的なガス取引の混乱によりLNG市場に対するボラティリティは高まっている。2025年3月のLNGの月平均価格は1 mmBTU当たり12.7米ドルであった。
* 世界の小麦価格は、主な小麦生産地域の実際および予想生育条件により変動する傾向にある。貿易政策および投入原価（特に輸送費）の変動も小麦価格に影響する可能性があり、近年の小麦価格と原油価格に同様の推移がみられる一因となっている。2025年2月の小麦の月平均価格は1トン当たり255米ドルであった。

#### 豪ドル為替相場



Note – Trade weighted index May 1970 = 100.0.

Source: RBA.

* 豪ドル為替相場はオーストラリアの主要輸出コモディティ価格、実際の金利差、予想された金利差など多くの要因に影響される。
* 強い米ドルを原因として、豪ドルは米ドルに対してここ数か月下落している。2025年3月の豪ドルは平均62.8米セントと前月比で1.1％上昇し、前年同月比では3.9％の下落となった。
* 貿易加重指数（TWI）は貿易相手国の通貨に対する豪ドルのより広範な指標で、17の外貨で構成される。これにはオーストラリアと当該国間の貿易額のシェアが反映されている。
* TWIは過去数年間比較的安定している。これは2021年および2022年の対米ドルでの豪ドル安が他国の通貨に対する豪ドル高で相殺されたため。2025年3月のTWIは前月比で0.2％上昇し、対前年同月比では3.1％の下落となった。

### 消費者価格と金利

[**目次に戻る**](#_Contents)

#### 消費者物価指数（推移）



Note – Original series. All groups consumer price index. Year‑on‑year change in quarterly index. (a) Weighted average of eight capital cities.

Source: Based on ABS data.

* パースのCPIインフレ率は、2022年10‐12月期の8.3％をピークに過去2年間で大幅に低下している。
* 年間インフレ率は消費者物価指数（CPI）の前年同期比の上昇率によって算出され、パースの年間インフレ率は2024年10‐12月期に2.9％となり、前四半期の3.8％から低下した。
* しかし、パースの年間CPIインフレ率は、過去3四半期オーストラリア全体の伸び率を上回っている。
* 2024年10-12月期、オーストラリアの年間インフレ率は前四半期の2.8％から2.4％に低下した。こうした全国的なCPIインフレ率低下の主な理由としては、電気代および自動車燃料価格の大幅な下落、そして新規住宅価格上昇の鈍化が挙げられる。
* 西オーストラリア州政府予算におけるパースのCPIは、継続的に提供される家庭用電気料金クレジットの影響を平準化するため、サブインデックス「電気」を除外して算出している。これに基づき、西オーストラリア州政府が発表した2024-25年中間財務予測では、パースの年間平均CPIは2024-25年度に3.25％、2025-26年度に2.75％上昇すると予測している。

#### 項目別消費者物価指数（変動に対する寄与度）：2024年10-12月期



Note – Original series. All groups consumer price index. Year-on-year change in quarterly index. pp = percentage points. (a) Weighted average of eight capital cities.

Source: Based on ABS data.2024年10-12月期のパースCPIの前年比成長で最大の貢献を見せたのが住宅（5.8％上昇）であった。これは主に、同期間中に西オーストラリア州政府リベートの第1弾が使用されたためにサブ項目「電気」が49.5％上昇したことによる。家賃の上昇も住宅項目の上昇に寄与している。

* 2024年10-12月期のパースのCPI上昇に寄与したその他のCPI項目は以下の通り。
* 食品・ノンアルコール飲料（3.2％上昇）
* アルコール・タバコ（5.5％上昇）
* 保険・金融サービス（6.1％上昇）
* 2024年10-12月期におけるオーストラリアのCPI上昇に最も寄与したのは食品・ノンアルコール飲料で（3.0％上昇）、アルコール・タバコ（6.2％上昇）がこれに続いた。

#### 政策金利

****

(a) Federal funds maximum target rate until December 2008 and the midpoint of the target range for the federal funds rate from January 2009 onwards. (b) Policy rate. (c) Bank rate. (d) Refinancing rate. (e) Cash rate.

Source: RBA and Central Banks.

* インフレ上昇を受けて2021年後半から2023年にかけて多くの国が金融引締めに転じ、2024年にはインフレおよびインフレ期待の低下を受けて一部の国々は利下げに踏み切った。
* RBAは、2022年5月から2023年11月にかけて政策金利を0.10％から4.35％に引き上げた。RBA理事会は2025年2月に同金利を25ベーシスポイント引下げて4.10％とし、直近の2025年4月会合では同金利の4.10％据置きを決定した。
* 2022-2023年の米国、英国および欧州地域の金融政策もオーストラリアと同様の展開を見せていたが、早期のインフレ緩和によりこれらの市場の中央銀行はオーストラリアよりも早く利下げに踏み切った。これらの市場における利下げは以下の通り。
  + 欧州中央銀行（ECB）：2024年6月に185ベーシスポイント引下げ。2025年3月の政策金利は2.65％
  + イングランド銀行：2024年8月に75ベーシスポイント引下げ。2025年3月の政策金利は4.5％
  + 米連邦準備制度理事会（FRB）：2024年9月に100ベーシスポイント引下げ。2025年3月の政策金利は4.38％
* インフレ上昇が遅れた日本は例外で、日銀は2024年3月には17年ぶりの利上げを実施し、同年7月および2025年1月にはさらなる利上げを実施した。2025年3月の政策金利は0.5％であった。

### 労働市場 – 雇用者数

[**目次に戻る**](#_Contents)

#### 雇用者数と月間総労働時間（推移）



Note – Seasonally adjusted series. 12-month rolling average for employed persons and total monthly hours worked. Year‑on‑year change in monthly series.

Source: Based on ABS data.

* 西オーストラリア州の雇用の伸びは、新型コロナウイルス感染症拡大からの景気回復期に急増したのち減少しているが、海外からの純流入が生産年齢人口の大幅増に寄与しており、比較的高いレベルを維持している。
* 2025年2月の西オーストラリア州の年平均雇用者数は3.4％増の162万人となった。
* 西オーストラリア州政府が発表した2024-25選挙前財務予測では、西オーストラリア州の年平均雇用者数は2024‐25年に3.25％、2025-26年に1.75％増加すると予測している。
* 過去1年間の労働時間の増加は雇用の伸びを下回ったが、その差は縮小している。
* 西オーストラリア州における全職種の月間労働時間の年平均は2025年2月に2.9％増の2億2,269万時間となった。
* 労働時間を上回るペースで雇用が増加し、雇用者一人当たりの月間総労働時間の年平均は2025年2月に0.5％減の140.5時間となった。

#### 産業別雇用（推移）：2025年1‐3月期



Note – Original series. Change between the sum of the latest four quarters and the sum of the same quarters of the previous year. Data is collected for the middle month of each quarter (February, May, August and November).

Source: Based on ABS data.

* 行政・公安は西オーストラリア州の平均雇用者数増で最大の伸びを見せ、2024年1-3月期から2025年1-3月期までの4四半期で19,488人増となった。建設業（10,762人増）および電気・ガス・水・ごみサービス（8,485人増）も同期間で平均雇用者数の増加がみられた。
* 西オーストラリア州の2大輸出産業である鉱業および製造業は、過去1年間の平均雇用者数で最大の減少がみられた。
  + 製造業の平均雇用者数は2024年1-3月期から2025年1-3月期までの4四半期で7,075人減少した。一方、鉱業の平均雇用者数は同期間に4,958人減少した。

#### 就労率



Note – Seasonally adjusted series. Monthly series.

Source: Based on ABS data.

* 西オーストラリア州の2025年2月の就労率は前月の69.2％から69.1％に低下した。
* オーストラリアの2025年2月の就労率は前月の67.2％から66.8％に低下した。
* 西オーストラリア州の就労率は常にオーストラリアの就労率を上回っており、2012年10月にはその差が最も大きくなった（4.5％ポイント）。
* 西オーストラリア州政府が発表した2024-25年選挙前財務予測では、西オーストラリア州の就労率平均は2024-25年に69.0％、2025-26年に68.9％になると予測している。

### 労働市場 – 余剰資源と求人

[**目次に戻る**](#_Contents)

#### 未活用労働者比率



Note – Seasonally adjusted series. Monthly series. Underutilisation rate is the sum of the unemployment and underemployment rates. (a) Proportion of unemployed in the labour force (people without a job who are actively looking for work). (b) Proportion of underemployed in the labour force (workers wanting more hours).

Source: Based on ABS data.

* 失業率と不完全雇用率の合計である未活用労働者比率は、西オーストラリア州では2025年2月は前月の9.1％から9.4％へ上昇した。
* 2025年2月の西オーストラリア州の失業率と不完全雇用率は、いずれも前月から低下した。
* 2025年2月の失業率は3.4％であった（前月は3.6％）。
* 2025年2月の不完全雇用率は5.6％であった（前月は5.8％）。
* 西オーストラリア州の未活用労働者比率が最も低くなったのは2008年10月であり（6.9％）、この時の失業率は2.3％、不完全雇用率は4.6％であった。
* 西オーストラリア州の未活用労働者比率が記録的な高さとなったのは、新型コロナウイルス感染症拡大初期の2020年4月であり（20.2％）、この時の失業率は6.1％、不完全雇用率は14.1％であった。

#### 職業群別インターネット求人件数



Note – Seasonally adjusted series. Online job advertisements on SEEK, CareerOne and Australian JobSearch. Excludes job advertisements on other online job boards, employer web sites, newspapers, and word of mouth. (a) Community and personal services; clerical and administrative; sales; and other.

Source: Jobs and Skills Australia.

* 西オーストラリア州の求人数は新型コロナウイルス感染症拡大初期には著しく減少したが、景気回復に伴い、また、一部の企業では労働供給量が限られた環境下で人員を補充するのが困難になったことで急増し、今もパンデミック前の水準を上回っているが、過去2年間で大幅に減少している。
* 西オーストラリア州の2025年2月のインターネット求人件数は26,225件で、前月から2.6％減となり、対前年同月比では14.1％減となった。
* 2025年2月、西オーストラリア州の失業者1人当たりのインターネット求人件数は0.45であった。この比率は2022年8月の0.68をピークに減少しているものの、歴史的低水準となった2020年5月の0.09よりはかなり高い水準を維持している。
* 西オーストラリア州では、2025年2月までの1年間に全ての職業群で求人件数が減少した。
* 管理職・専門職は15.4％減
* 技術者・関連職業は13.7％減
* 機械オペレーター・運転手・労働者は9.5％減
* 地域・対人サービス、事務・管理、販売などの「その他」の職業群は15.0％減

#### 業種別失業1／雇用比率：2025年1-3月期



Note – Original series. Average of the latest four quarters. Data is collected for the middle month of each quarter (February, May, August and November). 1 Unemployed persons by industry of last job.

Source: Based on ABS data.

* 最終勤務業種別失業者数は、各業種で利用可能な付加的労働者の潜在的プール規模を示している。最大雇用業種には当該業種で最後に働いた最大の失業者数が存在する傾向にあることを考慮すると、失業/雇用比率は業種比較時のより適切な基準となる。
* 2025年1-3月期までの4四半期の平均失業/雇用比率が最も高かった業種は以下の通り。
* 宿泊・外食（0.052）
* 芸術・レクリエーションサービス（0.051）
* 小売業（0.041）
* 2025年1-3月期までの4四半期の平均失業／雇用比率が最も低かった業種は以下の通り。
* 情報メディア・電気通信（0.007）
* 行政・公安（0.012）
* レンタル・雇用・不動産サービス（0.013）

### 労働市場 – 賃金

[**目次に戻る**](#_Contents)

#### 賃金物価指数（推移）と労働力利用率



Note – Current prices. Original series. Year-on-year change in quarterly wage price index. 2008-09 = 100.0. Right vertical axis does not start at zero. (a) The labour utilisation rate is the proportion of persons in the labour force not underutilised.

Source: Based on ABS data.

* 西オーストラリア州の賃金上昇率は概して労働力利用率と呼応している。つまり、労働力利用率が高く、余剰資源が低い場合、雇用主は労働力を確保し維持するために高い賃金を提示することになる。しかし、近年は労働力利用率と賃金上昇率との強い相関関係はみられない。
* 新型コロナウイルス感染症拡大からの景気回復に伴い、労働力利用率は急増したが、賃金上昇率の上昇には時間を要した。
* 労働力利用率が非常に高いレベルにあるにもかかわらず、賃金上昇率は過去4四半期に低下している。
* 賃金物価指数（WPI）の対前年変化率で示される西オーストラリア州の賃金上昇率は、2023年10‐12月期の4.7％から2024年10‐12月期には3.3％へと低下した。
* 西オーストラリア州政府が発表した2024-25年選挙前財務予測では、州の年間平均賃金は2024-25年に3.75％、2025-26年に3.5％上昇すると予測している。
* 賃金上昇率も全国レベルで低下しており、オーストラリア全体の賃金物価指数の前年同期比は2023年10-12月期の4.3％から2024年10-12月期の3.2％へ低下している。

#### 賃金物価指数（名目および実質賃金物価指数の推移）



Note – Original series. Nominal = index of current prices. Real = index of current prices deflated by all‑groups consumer price index for Perth. Year-on-year change in quarterly indexes. (a) Change in all‑groups consumer price index for Perth are multiplied by negative one, given inflation detracts from real wages.

Source: Based on ABS data.西オーストラリア州の名目賃金はこの3年間で上昇したが、インフレ率がほぼ常にこれを上回ったことから実質賃金は下落した。インフレ率が名目賃金上昇率を上回る期間が長引いた結果、実質賃金は2011年の水準まで後退した。

* 実質賃金は2024年5-6月期および7-9月期に下落したのち、同年10-12月期に上昇した。
* 2024年10‐12月期の賃金物価指数の対前年変化率（3.3％）は、消費者物価指数の対前年変化率（2.9％）を下回った。
* オーストラリアの実質賃金は、2023年10-12月期の0.2％から2024年10-12月期の0.8％へと5四半期連続で前年比を上回る伸びを見せている。

#### 週平均賃金の州間比較1



Note – Seasonally adjusted series. Data is collected for the middle month of the June and December quarters (May and November). 1 Full-time adult total earnings.

Source: Based on ABS data.

* 西オーストラリア州の週平均賃金はオーストラリアの他の州・地域を上回っているが、この一因として同州では高収入の鉱業および鉱業サービス業で雇用されているフルタイム労働者の比率が比較的高いことが挙げられる。
* 2024年10-12月期の西オーストラリア州の週平均賃金は2,245ドルで、全国平均の2,044ドルを10％上回った。
* 2024年10-12月期の週平均賃金が全国平均を上回るオーストラリアのその他区域は以下の通り:
* オーストラリア首都特別地域（2,202ドル）
* ニューサウスウェールズ州（2,052ドル）
* 2024年10-12月期の週平均賃金が全国平均を下回るオーストラリアのその他区域は以下の通り。
* タスマニア州（1,825ドル）
* 南オーストラリア州（1,923ドル）
* ノーザンテリトリー（1,981ドル）
* ビクトリア州（1,993ドル）
* クイーンズランド州（2.033ドル）

### 人口

[**目次に戻る**](#_Contents)

#### 推定居住人口（推移）



Note – Original series. Year-on-year change in quarterly series.

Source: Based on ABS data.

* 西オーストラリア州の人口は、過去15年間の伸び率と比較して、およびオーストラリア全体との比較でも高い伸び率を示し続けている。
* 西オーストラリア州の人口増加率は2023年7-9月期までの1年間で3.4％に達したが、2024年7-9月期までの1年間は4四半期全てで低下して2.5％になっている。
* 2024年7-9月期までの1年間のオーストラリア全体の人口増加率は1.8％であった。
* 2024年7-9月期の西オーストラリア州の推定居住人口は298万人で、オーストラリア全体の推定居住人口2,731万人の10.9％を占めた。
* 2024年7-9月期までの1年間で、西オーストラリア州の人口は72,612人増加した。その内訳は以下の通り。
* 海外からの純流入50,760人（オーストラリア全体の13.4％）
* 自然増加12,878人（オーストラリア全体の12.4％）
* 他州からの純流入8,974人
* 西オーストラリア州政府が発表した2024-25年選挙前財務予測では、西オーストラリア州の人口は2024-25年に1.9％、2025-26年に1.8％増加すると予測している。

#### 海外からの純流入



Note – Original series. Quarterly series. Overseas arrivals less departures.

Source: Based on ABS data.

* 西オーストラリア州への海外からの純流入には、新型コロナウイルス感染症拡大時の国境封鎖と再開放が大いに影響した。
* 2024年7-9月期までの1年間における西オーストラリア州への海外からの純流入者数は50,760人で、前年同期までの1年間を28.2％下回った。
* 2024年7-9月期の海外からの純流入者数は11,564人で、過去最高を記録した前年1‐3月期の20,995人から減少した。
* 海外からのオーストラリアへの純流入全体に占める西オーストラリア州への流入の割合は、2024年7-9月期に12.9％となり、長期的な平均値である約12％を上回った。
* 海外からのオーストラリアへの純流入者数に占める西オーストラリア州の割合は、オーストラリアの他地域と比較した同州の経済状況と連動して長期的に変動している。

#### 州間移住



Note – Original series. Quarterly series.

Source: Based on ABS data.

* 西オーストラリア州の州間移住は2014年1-3月期から2020年1-3月期までの25四半期にわたりマイナスで推移したが、2020年半ばにプラスに転じた。
* 2024年7-9月期までの1年間における州間純移住は8,974人で、内訳は以下の通り。
* 他州からの流入35,358人
* 他州への流出26,384人
* 2024年7-9月期における州間純移住は1,469人で、前四半期の2,411人を下回った。

### 住宅

[**目次に戻る**](#_Contents)

#### 住宅建設活動



Note – Seasonally adjusted series for dwelling commencements and completions and original series for dwellings under construction. Quarterly series.

Source: Based on ABS data.

* 一般に、住宅竣工戸数は建設期間のラグを伴って住宅着工戸数に追従するが、平均竣工時間が変動すると近年の西オーストラリア州でみられたようにこの関係性が崩れることになる。
* 2020年代半ばにオーストラリア政府および西オーストラリア州政府が景気刺激策を導入したことで、住宅着工戸数は大幅に増加した。
* しかし、住宅建設の長期化はこれに対応する住宅竣工戸数の増加がなかったことを意味し、これが建設中住宅数の急増につながった。
* 竣工率の上昇を受け、建設中住宅数は過去2年間で若干減少している。しかし、過去1年間の住宅着工戸数増は比較的高いレベルで建設中住宅数を追従している。
* 2023年7-9月期から2024年7-9月期の間の西オーストラリア州の住宅数は以下の通り。
* 着工件数5,777件（72％増）
* 建設中件数22,910件（6％減）
* 竣工件数5,924（20％増）

#### 住宅価格指数と賃貸価格指数



Note – Original series. Quarterly series. 2011-12 = 100.0.

Source: Based on ABS data.

* 速いペースの人口増加に伴う需要の高まりと新規供給の制約が重なり、住宅価格と賃貸価格が上昇している。
* パースで持ち家として購入された新築住宅の価格は2024年10‐12月期に0.6％上昇し、前年同期比では13.6％高くなった。
* パースの賃貸価格は2024年10‐12月期に1.3％上昇し、前年同期比では10.1％高くなった。
* パースの賃貸価格は、賃貸物件の空室率がかなりの低レベルに落ち込んだ2021年から上昇し始めている。2024年12月のパースの賃貸空室率は1.9％であった。

#### 住宅価格の中央値の比較：2024年7‐9月期



Note – Current prices. Original series. Quarterly series.

Source: Based on ABS data.

* パースの住宅価格はこの1年間で大幅に上昇しているが、オーストラリアの他の州都と比較すると低い水準にある。
* 2024年7-9月期のパースの住宅価格中央値は77万6,500ドルで、前四半期から2.2％、2023年7-9月期から25％の上昇だった。
* シドニーの住宅価格中央値（137万ドル）は2024年7-9月期に5.9％減少したにもかかわらず、オーストラリア全州都の中で最も高いままであった。
* 西オーストラリア州のパースを除く地域の住宅価格もこの1年間で大幅に上昇しているが、オーストラリア他州の州都を除く地域の大半と比べて低い。
* 西オーストラリア州のパースを除く地域の住宅価格中央値は49万ドルで、前四半期から4.5％、2023年7-9月期から18％の上昇だった。
* 西オーストラリア州政府が発表した2024-25年中間財務予測では、西オーストラリア州の住宅価格中央値は2024‐25年に15.8％、2025-26年に6.1％上昇すると予測している。

### 建設

[**目次に戻る**](#_Contents)

#### 民間新規資本支出



Note – Current prices. Original series. Quarterly series. 4-quarter rolling sum. (a) All industries other than mining; agriculture, forestry and fishing; public administration and safety; and superannuation funds.

Source: Based on ABS data.

* 西オーストラリア州の民間新規資本支出は、この1年で鉱業、非鉱業ともに増加している。2024年10‐12月期までの1年間における州の新規資本支出額は以下の通り。
* 鉱業では2.5％増の318億ドル
* 鉱業以外では4.8％増の129億ドル
* 2024年10‐12月期までの4四半期における西オーストラリア州の民間新規資本支出はオーストラリア全体の24.1％を占めた。そのうち61.3％が鉱業分野の新規資本支出、9.7％が鉱業以外の分野における新規資本支出である。
* オーストラリア統計局（ABS）の支出予想調査では、西オーストラリア州の民間新規資本支出額は2024-25年に1.8％増の458億ドルとなったのち、2025-26年には18.6％減の373億ドルになることが示唆されている。詳細は以下の通り。
* 鉱業は19.3％減の267億ドルとなる見込み
* 鉱業以外では16.8％減の106億ドルとなる見込み

#### 土木建設活動



Note – Current prices. Seasonally adjusted series. 4-quarter rolling sum. (a) Roads, highways and subdivisions; bridges, railways and harbours; electricity generation and transmission and pipelines; water storage and supply, sewerage and drainage; telecommunications; heaving industry; recreation and other structures. (b) Residential, commercial, industrial and other non-residential buildings.

Source: Based on ABS data.

* 2024年10‐12月期までの4四半期で、西オーストラリア州の建設活動額は24.2％増加し342億ドルとなった。この増加に寄与した項目は以下の通り。
* 重工業（20.5％増の183億ドル）
* 発電、送信、流通、パイプライン（61.5％増の49億ドル）
* 2024年10-12月期の建設活動データはまだ公表されていない。
* 2024年7‐9月期までの4四半期で、西オーストラリア州の建物建設活動額は9.9％増加し151億ドルとなった。
* 住宅用建物は8.1％増の87億ドル
* 非住宅用建物は12.4％増の63億ドル

#### 進行中の建設活動



Note – Current prices. Original series. Quarterly series. (a) Data just for Western Australia is not available for some quarters; the data presented here is the national total excluding all states and territories except for Western Australia and the Northern Territory. (b) Value of work remaining on jobs under construction at the end of the quarter. (c) Sum of the value of work remaining on jobs under construction and work not yet commenced at the end of the quarter.

Source: Based on ABS data.

* 2010年代前半に鉄鉱石、液化天然ガスなどの新規プロジェクトへの投資が相次ぎ、進行中の建設活動額が大幅に増加したが、その後はこれらのプロジェクトの完了に伴い投資額も減少した。近年は各種新規プロジェクトへの投資が活発になっているが、進行中の建設活動額はピークアウトしたようである。
* 西オーストラリア州とノーザンテリトリー(a)の2024年10‐12月期における未着工の建設工事額は10.2％減の306億ドルとなった。
* 2020年半ばから2022年半ばにかけては、オーストラリア政府および西オーストラリア州政府の景気刺激策により進行中の建設工事額が増加したが、建設コストと金利の上昇により新規投資が抑制されたことで2023年を通じて減少したのち、2024年は安定に転じた。
* 2024年10-12月期の建設活動データはまだ公表されていない。
* 2024年7‐9月期の西オーストラリア州の進行中の建設工事額は2.7％減の110億ドルとなった。
* 住宅建設費は0.03％減の63億ドル
* 非住宅建築は6.2％減の46億ドル

### 各地域の労働市場と建設

[**目次に戻る**](#_Contents)

#### 地域別インターネット求人件数



Note – Original series. Monthly series. 3-month moving average. Custom Internet Vacancy Index regions.

Source: Jobs and Skills Australia.

* 過去2年間で西オーストラリア州の非都市地域におけるインターネット求人件数は減少しているが、比較的高いレベルを維持している。
* 2024年2月から2025年2月にかけてのインターネット求人件数は以下の通り。
  + ピルバラおよびキンバリー地域は18％減の1,797件
  + ゴールドフィールズおよび南部地域は8％減の1,722件
  + 南西部地域は21％減の1,260件
* 2025年2月までの1年間の西オーストラリア州各地域におけるインターネット求人件数減少を主導したのは専門職であった。詳細は以下の通り。
  + ピルバラおよびキンバリー地域の技術者（38％減）ならびに開業医および看護師（28％減）
  + ゴールドフィールズおよび南部地域の開業医および看護師（27％減）ならびに技術者（31％減）
  + 南西部地域の開業医および看護師（46％減）
* インターネット求人件数は、自動車および機械産業労働者に関してピルバラおよびキンバリー地域（12％減）ならびに南西部地域（26％減）、接客サービス労働者に関して南西部地域（62％減）でも大幅に減少している。

#### 地域別失業率



Note – Smoothed seasonally adjusted series. Development commission regions.

Source: Jobs and Skills Australia.

* 西オーストラリア州の2024年7-9月期の失業率は、キンバリー地域を除き4％以下だった。
* キンバリー地域は西オーストラリア州の中でほぼ常に失業率が最も高いが、2024年7-9月期のキンバリーの失業率は、新型コロナウイルス感染拡大前（2019年10-12月期16.2％）よりも大幅に低い9.2％であった。
* 西オーストラリア州の主要鉱業地域であるピルバラの失業率が非常に低いのは、鉱業への支援が充実していることによる。
* 2024年7-9月期には、パースおよびピルバラ地域を除く西オーストラリア州全地域で失業率が低下した。2024年7-9月期で失業率が最も低下したのはウィートベルト地域（3.7％から3.0％）で、次いでグレートサザン地域（3.2％から2.7％）であった。

#### 地域別一人当たり建設許可：2023-24年



Note – Current prices. Original series. Monthly series. pp = percentage points. Development commission regions. (a) Residential building approvals for the construction of houses and apartments. (b) Non-residential building approvals for the construction of commercial buildings (retail/wholesale trade, transport, offices), industrial buildings (factories, warehouses, agriculture) and other non-residential buildings (education, religion, health, entertainment/recreation, short-term accommodation).

Source: Based on ABS data.

* 建設業が労働集約的であることは、建設活動の繁忙期には地域労働力の大半が就業中であることを意味する。そのため、建築許可は、地域経済におけるより広範な景気の良き兆候となり得る。
  + 一人当たりでの建築許可の比較は地域人口の差異を明らかにすると共に、地域間の相対的需要の指標となる。
* 2023-24年にかけて一人当たり住宅建築許可金額が最も高かったのがピール地域（4,404ドル）で、次いでガスコイン（3,421ドル）および南西部地域（3,162ドル）であった。
* 2023-24年にかけて一人当たり非住宅建築許可金額が極めて高かったのがピルバラ地域（9,766ドル）で、これは同地域の大規模鉱業で産業および商業用建物が必要とされたことを反映したものであった。2023-24年にかけて、ピルバラ地域の非住宅建築許可金額はほぼ4倍の5億9,300万ドルとなった。

### 国際貿易

[**目次に戻る**](#_Contents)

#### 物品輸出



Note – Current prices. Free on board. Original series. 12‑month rolling sum.

Source: Based on ABS data.

* 西オーストラリア州の輸出額は、鉄鉱石、液化天然ガス、電池、クリティカルミネラル、穀物の高値に牽引されて過去10年で増加している。これらのコモディティ価格が長期平均レベルに戻ったことで、西オーストラリア州の輸出額はピーク時から減少している。
* 西オーストラリア州の2025年1月までの1年間における輸出額は2,328億ドルで、2024年1月までの1年間と比較して10.8％減少した。
* 2025年1月までの1年間に、
* 鉄鉱石の輸出額は2024年1月までの1年間より11.5％減の1,202億ドルとなり、
* 鉄鉱石以外の輸出額は2024年1月までの1年間より10.1％減の1,126億ドルとなった。
* 西オーストラリア州における12ヶ月間の輸出額のピークは2023年4月の2,721億ドルで、鉄鉱石輸出額のピークは2021年9月の1,622億ドルであった。

#### 物品輸入



Note – Current prices. Customs value. Original series. 12-month rolling sum. The large increase in the value of imports in 2017 was due largely to the arrival of the Prelude floating LNG plant. (a) Includes road vehicles. (b) Petroleum, petroleum products and other mineral fuels. (c) For further refining at the Perth Mint. (d) Includes other agricultural-based goods.

Source: Based on ABS data.

* 2022年の西オーストラリア州の輸入額は原油価格の上昇により大幅に増加した。原油価格の下落は石油輸入額の減少につながったが、その他の様々な輸入品の価格が上昇し、需要も増加しているため、西オーストラリア州の輸入総額は継続的に増加している。
* 西オーストラリア州の2025年1月までの1年間における輸入額は、前年1月までの1年間から6.5％上昇し520億ドルであった。
* 2025年1月までの1年間に、
* 機械および輸送設備の輸入額は2024年1月までの1年間より10.1％増の204億ドルとなり、
* 石油の輸入額は2024年1月までの1年間より4.3％減の106億ドルとなり、
* 非貨幣金の輸入額は2024年1月までの1年間より17.1％減の33億ドルとなり、
* 化学製品の輸入額は2024年1月までの1年間より7.0％増の37億ドルとなり、
* 食品およびその他農産物の輸入額は2024年1月までの1年間より17.3％増の14億ドルとなった。

#### 海上輸送費



Note – Current prices. Original series. Monthly series. The Baltic Dry Index is a composite of three sizes of cargo ships measured by deadweight (DWt) tonnage (or weight of cargo excluding the weight of the ship).

Source: Trading Economics.

* バルチック海運指数（BDI）は、20通り超の航路で原材料を輸送する際の輸送費を示すものである。世界の貿易品の90％は海上輸送によるものであるため、この指数は世界貿易の有用な指標となる。
* 新型コロナウイルス感染症拡大後の世界的な景気回復に伴い、原材料の需要が増加したため、BDIは2020年半ばから急速に上昇し、2021年9月にピークを迎えた。2022年半ばにはBDIはパンデミック以前の水準まで低下したが変動しており、2025年1-3月には2倍超の1,598となった。
* コンテナ貨物指数（CFI）は、中国の主要港からのコンテナ輸送費の指標である。
* BDIと同様、CFIも2020年半ばから急速に上昇し、2021年12月にピークを迎えた。これは世界経済の回復と供給の途絶が相まってコンテナ運賃が大幅に上昇したためである。
* CFIは2023年9月の887から2024年6月には3,714に上昇したのち、2025年3月には60％超低下して1,357となった。この低下は北米および欧州における消費者需要の鈍化し、船舶可用性が改善したためである。

## 西オーストラリア州 - 経済構造と産業

西オーストラリア州の経済は、その広大な土地と海岸線、豊富な鉱物・鉱油資源、人口の多い主要都市と国内外の他の都市との距離的近接性といった物理的・地理的特性によって方向付けられてきた。ここ数十年では、国内外における進展、特に国内の経済改革や国際政策（貿易自由化など）が州の経済に大きな影響を及ぼしている。同時に、鉱物資源・鉱油資源が限られている中国その他のアジア諸国の経済発展は、鉄鉱石を中心とした州の輸出コモディティ、液化天然ガス、および最近では電池やクリティカルミネラルに対する需要増をもたらしている。

これらの影響に促された西オーストラリア州の鉱業の規模拡大は3つの段階に大別できる。すなわち、需要の高まりがコモディティ価格の上昇をもたらした2000年代半ばから後半にかけての初期段階、その後2010年代半ばにかけての需要増と価格上昇に対する供給反応としての投資段階（この時期に多くの大規模資源プロジェクトに基づく建設が開始された）、そしてこれらのプロジェクトが稼働を開始した2010年代半ばからの生産段階である。鉱業の拡大により西オーストラリア州で新たな活動が大規模に始動したことで州の経済構造は大きく変化した。要約すると、西オーストラリア州の現在の経済構造の顕著な特徴は、州総生産（GSP）に占める商品輸出の割合が比較的高いこと、これらの輸出のうち中国向けが多いこと、投資と州総生産に占める鉱業の割合が高いことである。

鉱業の拡大により、西オーストラリア州では経済成長期が長く続き、国のレベルを上回る成長率となることもあった。新型コロナウイルス感染拡大期も同様であり、この期間中も州の鉱業は生産量を維持し、鉄鉱石価格の上昇による恩恵を受けた。一方、サービス輸出への依存度が高い他の経済活動は、渡航制限によって輸出が抑制されたことで著しい業績悪化に見舞われた。

一方、西オーストラリア州の経済成長が家計所得に及ぼす影響は、鉱業拡大期の段階ごとに変化していった。投資段階では国内労働力が大いに必要とされ、労働需要と賃金を押し上げたが、プロジェクトが稼動すると労働力需要は減退した。コモディティ価格は大きな利益をもたらすのに十分な額だが、鉱業プロジェクトの大部分が州外所有資本であるため、州内での経済生産による収入の多くが現在は州外に流出している。そのため、2022‐23年における西オーストラリア州の一人当たりGSPはオーストラリア平均よりも62％高くなったのに対し、州の一人当たり可処分世帯総所得はオーストラリア平均を10％のみ上回るにとどまった。

今後数十年間は、鉱業が西オーストラリア州の経済生産に最も大きく貢献する産業であり続けるだろう。しかし、鉱業拡張の大きな原動力となった中国の経済発展と都市化による鉄鋼生産の成長は後退しており、これまでの20年間と同じように今後も鉱業が西オーストラリア州の経済成長に寄与することは期待できない。州総生産に占める鉱業の割合が高くなっていることから、州の経済は以前よりもコモディティ価格の変動に左右されやすくなっている可能性もある。州経済にはまた、気候変動などの世界的な課題や変化、および、AIやオートメーションの役割の増大といった差し迫った技術革新に適応する力が求められている。

このような課題に対処しつつ、経済成長の源をさらに拡大していく必要があることから、西オーストラリア州政府は2019年、世界的な傾向に合致した州の強みを生かした戦略的発展の優先分野を特定した枠組み*[Diversify WA](https://www.wa.gov.au/organisation/department-of-jobs-tourism-science-and-innovation/diversify-wa-economic-development-framework)*を発表した。続いて2023年に、西オーストラリア州への国際投資を促進する最も重要な機会に焦点を当てた*[Future State: Accelerating Diversify WA](https://www.wa.gov.au/government/publications/diversify-wa-future-state)*を公表した。その一方で、他の多くの先進経済圏と同様、西オーストラリア州も過去数十年にわたり達成してきた生産性成長率の鈍化に直面している。人口の高齢化は進行しているが、女性の就労率向上による恩恵は最大限に得られていることから、一人当たり所得増を維持していくためには、経済全体における生産性のさらなる向上が求められている。

### 経済構造と産業 – 目次

[**州総生産**](#_Gross_state_product)

[**一人当たり所得**](#_Per_capita_incomes)

[**国際貿易（年間）**](#_International_trade_(annual))

[**生産性**](#_Productivity)

[**産業粗付加価値**](#_産業粗付加価値)

[**産業別投資**](#_Industry_investment)

[**産業別雇用**](#_Industry_employment)

[**ジェンダー指標**](#_ジェンダー指標)

[**アボリジナル指標**](#_Aboriginal_Indicators)

[**環境**](#_Environment_2)

[**鉱業とエネルギー産業**](#_Mining_and_energy)

[**一次産業と防衛産業**](#_Primary_industries_and)

[**観光業と国際教育**](#_Tourism_and_international)

[**地域**](#_Regions)

### 州総生産

[**目次に戻る**](#_Contents_of_economic)

#### 大分類項目別州総生産



Note – Current prices. Original series. (a) Household and general government final consumption expenditure, and gross fixed capital formation. (b) Exports less imports of goods and services. Changes in state final demand can be exaggerated by large swings in business investment without adjusting for the associated changes in imports.

Source: Based on ABS data.

* 2023‑24年の西オーストラリア州総生産（GSP）名目値は4,557億ドルであった。
* GSPは、消費と投資の合計を示す州最終需要と、物品とサービスの純（国際）輸出に分けられる。2022-23年、
* 州最終需要は3,058億ドルで、GSP支出の67％を占めた。
* 西オーストラリア州の物品とサービスの純輸出額は1,938億ドルで、GSP支出の43％を占めた。
* 州間貿易とその他の項目として439億ドル（10％）が2023-24年のGSPから差し引かれた。
* 鉱業活動のサイクルは、過去20年にわたり西オーストラリア州GSPの州最終需要と純輸出のバランスに大きな影響を及ぼしてきた。
* 2000年代初頭から2010年代半ばにかけて、鉱業プロジェクトへの投資により州の最終需要は大幅に増加した。この投資により新たにもたらされた生産能力が、2010年代半ばからの純輸出の高い伸びに寄与した。
* プロジェクトが完了し、新規プロジェクトの供給経路が縮小するにつれて、州の最終需要額は減少した。近年、州の最終需要は力強く回復している。

#### 項目別州総生産（シェア）



Note – Current prices. Original series. (a) Private gross fixed capital formation. (b) General government final consumption expenditure and public gross fixed capital formation. (c) Exports less imports of goods and services.

Source: Based on ABS data.

* 西オーストラリア州経済は、30年前と比べて国際貿易への依存度が強まっている。物品・サービスの純輸出がGSPに占める割合は1993‐94年の25％から2023‐24年の43％へと増加した。ピークは、物品輸出が好調であった一方でサービス輸入が減少したパンデミック期間中の2020-21年の52％である。
* GSPに占める民間投資の割合は鉱業投資サイクルの影響を受けてきた。この割合が最も高くなったのは鉄鉱石と液化天然ガスの複数プロジェクトにおける建設活動がピークを迎えた2012‐13年の36％であった。その後、建設段階から操業段階へと移行し、これらのプロジェクトの生産物が純輸出としてGSPに寄与することとなる中で、民間投資がGSPに占める割合は低下し、2023‐24年には17％となった。
* 家計消費と公的最終需要は長期にわたり増加したが、州経済に占めるシェアは純輸出の伸びが加速するにつれ縮小している。家計消費のGSPシェアは1993‐94年の53％から2023‐24年の33％へと低下し、公的最終需要のGSPシェアは1993‐94年の22％から2023‐24年の17％へと低下した。

#### 州総生産と国内総生産に占める各項目（シェア）の比較：2023‑24年



Note – Current prices. Original series. (a) Private gross fixed capital formation. (b) General government final consumption expenditure and public gross fixed capital formation. (c) Exports less imports of goods and services.

Source: Based on ABS data.

* 西オーストラリア州の経済における過去30年間の変化は、現在その経済構造がオーストラリアの他地域と全く異なるものになっていることを意味する。
* 家計消費は2023-24年のオーストラリア国内総生産（GDP）の51％を占め、これは2023-24年の西オーストラリア州のGSPに占める割合よりはるかに高く、1993‐94年の西オーストラリア州のGSPに占める割合とほぼ同程度である。
* 西オーストラリア州はオーストラリアの輸出に占める割合が高いため、オーストラリアのGDPに占める純輸出のシェア（2023-24年は2％）は、西オーストラリア州のGSPに占める割合に比べて大幅に低くなっている。
* 2023‐24年のGDPに占める民間投資のシェア（19％）と公的最終需要のシェア（28％）は、西オーストラリア州のGSPに占めるそれぞれのシェアと比べると高いが、これは西オーストラリア州のGSPでは純輸出のシェアが高いことによる。

### 一人当たり所得

[**目次に戻る**](#_Contents_of_economic)

#### 一人当たり州総生産（GSP）／国内総生産



Note – Current prices. Original series.

Source: Based on ABS data.

* 過去20年間、西オーストラリア州の名目GSPはオーストラリアの名目GSPを上回るペースで成長してきた。このため州の一人当たりGSPと国の一人当たりGDPの間には大きな差が生じている。
* 2003‐04年の西オーストラリア州のGSPは958億ドルで、オーストラリアのGDPの11.1％を占めた。2023‐24年の西オーストラリア州のGSPは4,557億ドルとなり、オーストラリアのGDPに占める割合は17.1％に増加した。
* 2003‐04年の西オーストラリア州の一人当たりGSPは48,744ドルで、オーストラリアの一人当たりGDP（43,586ドル）を12％上回った。2023‐24年の西オーストラリア州の一人当たりGSPは155,644ドルとなり、オーストラリアの一人当たりGDP（99,128ドル）を57％上回った。

#### 要素所得別州総生産（GSP）



Note – Current prices. Original series. (a) Compensation of employees. (b) Gross operating surplus and gross mixed income. (c) Ownership of dwellings; taxes less subsidies on production and imports; and statistical discrepancy.

Source: Based on ABS data.

* 西オーストラリア州の鉱業の成長は、要素所得（労働および資本に対する利益）全体のGSP配分に大いに影響してきた。
* 2000年代半ばにコモディティ価格が上昇したことで、西オーストラリア州のGSPに占める利益の割合が増大した。
* 2010年代前半から半ばにかけて複数の大型建設プロジェクトが実施されたことで労働需要が高まり、その結果2015‐16年には西オーストラリア州のGSPに占める賃金・給与の割合が46％まで回復した。
* これらのプロジェクトが労働集約的でない操業段階に移行したことと、コモディティ価格の高騰が重なり、西オーストラリア州のGSPに占める利益の割合が増大した。
* 2023‑24年には、
* 賃金・給与は1,583億ドルでGSPの35％を占めた。
* 利益は2,699億ドルでGSPの59％を占めた。
* 「その他」の分類（住居所有権、生産と輸入に対する補助金控除後の税金、および統計上の不一致）は275億ドルで、GSPの6％を占めた。

#### 一人当たり家計可処分所得



Note – Current prices. Original series.

Source: Based on ABS data.

* 近年、西オーストラリア州で大きな利益を生んでいる資本のかなりの部分が州外で所有されている。このことは、近年における西オーストラリア州のGSP成長に伴う収入増のかなりの部分が州外に流出していることを意味する。州と国の一人当たり家計可処分所得の差が一人当たり州総生産と国内総生産の差よりもはるかに小さいのはこのためである。
* 西オーストラリア州の一人当たり家計可処分所得は、1993-94年から2001-02年まではほぼオーストラリア全体の平均と同水準であったが、2002-03年以降は一貫して国内平均を上回っている。
* 格差が最も大きくなったのは2013-14年（鉱業拡張の建設段階）で、この年の西オーストラリア州の一人当たり家計可処分所得は、国の44,793ドルを23％上回る55,124ドルとなった。この差は操業段階に移行するにつれて縮まったが、近年はわずかに格差が拡大している。
* 2023-24年、西オーストラリア州の一人当たり家計可処分所得は63,814ドルで、オーストラリア全体の58,599ドルを9％上回った。

### 国際貿易（年間）

[**目次に戻る**](#_Contents_of_economic)

#### 物品の輸出入



Note – Current prices. Original series. Imports of goods are displayed as negative values given they detract from gross state product.

Source: Based on ABS data.

* 西オーストラリア州では物品貿易が大幅な黒字となっており、鉱物、エネルギー、農産物が大量に生産され大きな収入をもたらしている。これらのコモディティは国内市場が小さいため、収入の多くは輸出によるものである。
* 1993‐94年から2023‐24年の間、西オーストラリア州の物品輸出額は年平均10％増加したが、これは鉱物と鉱油の輸出が大幅に伸びたことによる。
* 2023-24年の西オーストラリア州の物品輸出額は2,562億ドル（オーストラリア全体の物品輸出額の48％）であった。
* 西オーストラリア州の主な輸入品は石油精製油、自動車、非貨幣金（パース造幣局で精製される）および化学製品である。
* 1993‐94年から2023‐24年の間に西オーストラリア州の物品輸入額は年平均9％増加した。
* 2023‐24年、西オーストラリア州の物品輸入額は557億ドル（オーストラリアの物品輸入額の13％）であった。

#### サービスの輸出入



Note – Current prices. Original series. Imports of services are displayed as negative values given they detract from gross state product.

Source: Based on ABS data.

* 物品貿易とは対照的に、西オーストラリア州のサービス貿易は概して赤字であり、所得の増加により西オーストラリア州民の海外旅行（サービスの輸入）が増加した2000年代半ばから赤字状態にある。
* 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う渡航と貿易の制限により、サービス貿易額は輸出入ともに急激に減少した。2020‐21年にはサービス貿易の収支が一時的にほぼ等価まで戻ったが、国境再開後はサービス輸入がサービス輸出よりも高い伸びを見せている。
* 2023‑24年には、
* 西オーストラリア州のサービス輸出額は100億ドル（オーストラリアのサービス輸出額の8.0％）となった。
* 西オーストラリア州のサービス輸入額は167ドル（オーストラリアのサービス輸入額の10.4％）となった。

#### 市場別物品輸出



Note – Current prices. Original series. Free on board.

Source: Based on ABS data.

* 過去30年間における西オーストラリア州の物品輸出の伸びは、中国における需要増（特に鉄鉱石）によるところが大きい。
* 1993‐94年、西オーストラリア州の物品輸出市場のうち中国が占める割合は7％だった。この年、州の最大の輸出市場は日本であり、州の物品輸出先の28％が日本で、9％が韓国だった。
* 2006-07年には、1962‐63年以来最大の市場であり続けた日本を抜いて、中国が西オーストラリア州最大の物品輸出市場となった。
* 2023-24年、西オーストラリア州の最大の物品輸出市場は中国（1,431億ドル、57％）であり、日本（283億ドル、11％）、韓国（165億ドル、7％）がこれに続く。その他のすべての国が州の物品輸出市場の25％（630億ドル）を占める。
* 2023-24年、西オーストラリア州の最大の輸入市場は中国（103億ドル、20％）であり、米国（73億ドル、14％）、マレーシア（40億ドル、8％）がこれに続く。

### 生産性

[**目次に戻る**](#_Contents_of_economic)

#### 実質州総生産の推移に対する3Pの寄与度



Note – Chain volume measures. Original series. Compound annual average change. pp = percentage points.

Source: Based on ABS data.

* 3Pの枠組みは、人口（population）、参加（participation、一人当たり労働時間）、生産性（productivity、労働時間当たりGSP）の変動が経済成長に及ぼす影響を示す指標となる。
* これら3つのPは連動して機能することもあれば、互いに抑制し合うこともある。例えば投資から経済成長が生まれ、それが労働時間当たりGSPを増加させ、賃金が上昇し、より多くの人が労働力に加わり、移住者が増えて人口が増加する可能性がある。これとは逆に、投資の増大を伴わない人口の急増は資本労働比率を低下させる可能性があり、その結果として生産性を押し下げることになる。
* 過去30年間で西オーストラリア州の州総生産が最大の伸びを示したのは生産性の寄与度が高かった時期である。1994-95年から2013-14年にかけて西オーストラリア州の人口は比較的急速に増加したが、これは民間投資が増えた時期と一致する。よってこの投資増が安定的な生産性向上に寄与したことになる。
* この10年間、西オーストラリア州の生産性の伸びは著しく鈍化しており、オーストラリア全体でも同様の傾向が見られる。

#### 分野別生産性



Note – Chain volume measures. Original series. Gross value added based multifactor productivity indexes. Market sector industries only. Index 2022-23 = 100.0.

Source: Based on ABS data.

* 生産性は投入される様々な要素との関連で捉えることができる。
* 労働生産性は、投入された労働量に対する生産量の比率、つまり、1時間の労働により生み出された生産量を表す。
* 資本生産性は、投入された資本に対する生産活動量の比率、つまり資本単位あたりの生産活動量を表す。
* 分野別生産性（MFP）とは、投入された労働と資本の総量に対する生産（活動）量の比率である。
* 労働と資本の生産性への寄与を分析するのは複雑な作業である。
* 労働生産性の変化には、資本の変化、および労働における資本生産性の変化が反映されることもある。
* 個別の資本投資が行われ、その資本が生産に貢献し始めるまでには時間差がある。例えば、西オーストラリア州の多くの資源プロジェクトでは、何十年にもわたって続く生産活動が生み出される前に、大規模な資本投資が数年にわたって実施されている。
* 西オーストラリア州の分野別生産性は、2022‐23年に0.5％上昇したが、2023‐24年には2.3％低下した。

#### 一人当たり純資本ストック（推移）



Note – Chain volume measures. Original series. Annual change.

Source: Based on ABS data.

* 純資本ストックとは、経済組織の総資本ストックから供用年数の経過に応じた減価を控除した値であり、経済組織が有する資産の純現在価値を表す富の指標となる。
* 西オーストラリア州およびオーストラリアでは生産性の伸びが概して上昇傾向にある。これは、一人の労働者が平均してより生産性の高い資本を利用できるようになり、一人当たり純資本ストックが持続的に増加していることによる。
* 西オーストラリア州では、2000年代の鉱業活動の拡大に伴い、州の一人当たり純資本ストックが国と比較して急速に増加した。民間投資と資本の深化がピークに達した2005‐06年から2015-16年にかけては州の一人当たり純資本ストックが年平均4.4％増加した（同期間の国の増加率は1.8％）。
* 2017‐18年以降、西オーストラリア州の一人当たり純資本ストックは減少傾向にある。鉱業の操業段階への移行、既存資本の減価償却、最近の海外からの純流入の増加が資本浅化の寄与因子となっている。

### 産業粗付加価値

[**目次に戻る**](#_Contents_of_economic)

#### 実質州総生産の変化に対する産業別寄与度



Note – Chain volume measures. Original series. Compound annual average change. pp = percentage points. (a) Ownership of dwellings, balancing item and statistical discrepancy.

Source: Based on ABS data.

* 鉱業は過去30年間一貫してGSPの成長に寄与してきたが、他産業の成長への寄与度は鉱業拡張期の段階ごとに異なる。
* 西オーストラリア州のGSP成長は2010年代半ばまでは比較的バランスが取れており、鉱業と同様に他産業も生産高が増加していた。鉱業の新規プロジェクトへの投資が建設業の成長をもたらし、鉱業拡大期におけるこの建設段階の労働集約的な性質が他産業へ波及効果をもたらした。
* 主要プロジェクトの建設がほぼ終了した後、プロジェクトの稼動によって鉱業生産高はさらに増加したが、建設が終了したことで2014‐15年から2019‐20年にかけては建設業がGSP成長の押し下げ要因となった。この操業段階の非労働集約的な性質は他の産業の経済活動にも影響を及ぼした。
* 近年の西オーストラリア州のGSP成長は下がっているが、鉱業生産高の増加がより緩やかになったこと、また、新型コロナウイルス感染症拡大後の景気回復が様々な産業に恩恵を与えたことで、よりバランスの取れたものとなっている。

#### 産業粗付加価値



Note – Current prices. Original series.

Source: Based on ABS data.

* 産業粗付加価値（GVA）とは、ある産業が物品・サービスの生産において創出した付加価値の指標である。GVAの名目値は、当該産業による生産量と、その産業による物品・サービスの販売価格の両方に影響される。
* 過去30年間で、鉱業の生産量とその生産物の平均価格は大幅に上昇した。鉱業のGVAは1993‐94年の74億ドルから2023‐24年の1,986億ドルへと増加した。GSPに占める鉱業の割合は1993‐94年の16％から2023‐24年には44％へ増加した。
* 全サービス産業のGVAは、1993‐94年の221億ドルから2023‐24年には1,560億ドルに増加した。
* 農林水産業および製造業のGVAは増加したが、鉱業への資源の割当量が増えるにつれ、これらの産業のGSPシェアは低下してきている。

#### 産業粗付加価値：2023‐24年



Note – Current prices. Original series.

Source: Based on ABS data.

* 2023-24年の西オーストラリア州GSPでは、以下の業種の製造産業が55％（2,522億ドル）を占めた。
* 鉱業（44％、1,986億ドル）
* 建設業（6％、257億ドル）
* 製造業（5％、204億ドル）
* 農林水産業（2％、76億ドル）
* 2023-24年のGSPの36％（1,617億ドル）を、以下の業種のサービス産業が占めた。
* 医療・社会扶助（5％、228億ドル）
* 専門的・科学技術サービス（5％、205億ドル）
* 運輸・郵便・倉庫業（3％、144億ドル）
* 金融・保険（3％、145億ドル）
* 住宅所有権およびその他の業種が2023-24年GSPの残り9％を占めた。

### 産業別投資

[**目次に戻る**](#_Contents_of_economic)

#### 総固定資本形成の変化に対する各産業の寄与度



Note – Chain volume measures. Original series. Compound annual average change. pp = percentage points. (a) Dwellings and ownership transfer costs.

Source: Based on ABS data.

* 鉱業の資本集約的な性質は、鉱業への投資サイクルが西オーストラリア州の総固定資本形成（投資）の変化に大きな影響を与えてきたことを意味する。
* 1994-95年から2003-04年にかけての各産業への投資は比較的均等に分配されており、鉱業への投資は86億ドルから137億ドルに、鉱業以外への投資は77億ドルから159億ドルにそれぞれ増加している。またこの時期には、投資総額に占めるその他の投資（住居やその他の所有権移転費用という形での投資）の割合が大きくなっている。
* 2012‐13年までの10年間に鉱業への投資が急拡大し、鉱業以外への投資も相補的に増加している。
* その後10年間は鉱業への投資が減速し、同時に鉱業以外への投資も鈍化しているが、鉱業以外の産業は鉱業ほど資本集約的でないため、投資減退も鉱業ほど顕著ではない。

#### 産業別総固定資本形成



Note – Current prices. Original series.

Source: Based on ABS data.

* 鉱業が急拡大した2000年代以前は、西オーストラリア州では各産業に均等に投資がなされていた。1999‐00年には、鉱業は西オーストラリア州の総投資額の21％を占めた。
* 2006-07年には鉱業への投資が非鉱業への投資総額を上回った。その後も鉱業への投資が急速に増加し続け、2012‐13年にピーク（620億ドル、総投資額の64％）となったが、その後5年間で大幅に減少し、2018‐19年には非鉱業投資とほぼ等しいレベルまで後退した。
* 2018‐19年以降は鉱業と非鉱業への投資額が共に着実に増加しており、これは潜在的には西オーストラリア経済にとってよりバランスの取れた成長の基盤となるだろう。

#### 産業別総固定資本形成：2023‑24年



Note – Current prices. Original series.

Source: Based on ABS data.

* 2023‐24年、西オーストラリア州の投資額の44％（413億ドル）を鉱業が占め、以下の産業がこれに続いた。
* 運輸・郵便・倉庫業（8％、78億ドル）
* 電気・ガス・水道・廃棄物処理（4％、39億ドル）
* 行政・公安（3％、31億ドル）
* 2023-24年に西オーストラリア州で最も投資額が増えたのは鉱業（60億ドル、17％増）で、次いで運輸、郵便、倉庫業（9億3,000万ドル、13％増）であった。
* 2023‐24年に西オーストラリア州で投資額が最も減少したのは情報・メディア・通信（6,000万ドル、7％減）であった。

### 産業別雇用

[**目次に戻る**](#_Contents_of_economic)

#### 雇用変動への産業別寄与度



Note – Original series. Pp = percentage points. Compound annual average change.

Source: Based on ABS data.

* 西オーストラリア州経済は、投資と経済生産活動の成長がほぼ鉱業によってもたらされた時期を経てきたが、鉱業は労働集約的でないため、西オーストラリア州の雇用の伸びにそれほど大きく寄与しているわけではない。そうであっても、鉱業と建設業の雇用の変動が西オーストラリア州の他産業の雇用に波及する傾向がある。
* 州の雇用増加に対する鉱業と建設業の寄与は、鉱業拡張の最盛期であった2013‐14年までの10年間において最も顕著だった。この期間中に西オーストラリア州の総雇用は3.0％増加し、そのうち1.1パーセンテージポイントが鉱業と建設業における雇用増によるものであった。

#### 産業別雇用



Note – Original series. Annual average employed persons. (a) Agriculture, forestry and fishing; manufacturing; construction; and electricity, gas, water and waste services.

Source: Based on ABS data.

* 過去30年間における西オーストラリア州の雇用構成の主な変化として、鉱業、建設業、サービス業で雇用が増加している一方で、州の雇用に占める製造業と農業の割合が減少傾向にある。
* 1993‐94年、西オーストラリア州の雇用総数に占める割合が特に高かった産業は小売業（雇用全体の11％）、製造業（10％）、医療・社会扶助（9％）であった。
* 雇用総数に占める製造業の割合は2004‐05年には建設業を下回り、2009‐10年には鉱業を下回った。2023‐24年の西オーストラリア州の雇用総数に占める製造業の割合（5％）は、1993‐94年の半分であった。
* 西オーストラリア州の農業は以前よりも資本集約的になり、生産性も高まったことから、生産高が増加しているのに対して必要とされる労力は減少している。西オーストラリア州の雇用全体に占める農林水産業の割合は1993‐94年の6％から2023‐24年の2％へと低下した。

#### 産業別雇用：2023-24年



Note – Original series. Annual average employed persons.

Source: Based on ABS data.

* 2023-24年、西オーストラリア州雇用の74％をサービス業が占めた。その主な業種は以下の通り。
* 医療・社会扶助（15％）
* 小売業（9％）
* 教育・訓練（8％）
* 2023-24年、西オーストラリア州の雇用の26％を製造産業が占めた。その主な業種は以下の通り。
* 鉱業（10％）
* 建設業（9％）
* 製造業（5％）

### ジェンダー指標

[**目次に戻る**](#_Contents_of_economic)

#### 一人当たり週平均労働時間（15才以上）



Note: Original series. Annual averages. The average is calculated as the total number of hours worked divided by the civilian population for males and females, not the number of employed males and females.

Source: Based on ABS data.

* 西オーストラリア州の平均労働時間は男性が女性を上回っているが、女性の労働参加率向上や男性の平均労働時間減少により、過去30年で格差は縮小している。
* 1993-94年、西オーストラリア州の週平均労働時間は男性が28.0時間、女性が13.2時間だった。
* 2023-24年、西オーストラリア州の州平均労働時間は男性が25.6時間、女性が17.0時間だった。
* 男性の平均労働時間に対する女性の平均労働時間の比率は、1993-94年の0.47から2023-24年には0.67に上昇している。

#### 男女別・産業別雇用割合：2023-24年



Note – Original series. Annual average employed persons.

Source: Based on ABS data.

* 2023-24年、西オーストラリア州の平均雇用者数では男性が53％、女性が47％をそれぞれ占めた。しかし、雇用者数の男女比は業界によって大きく異なっている。
* 2023-24年の西オーストラリア州雇用者数で男性が多い業界は、建設業（87％）、運輸・郵便・倉庫業（76％）、鉱業（76％）だった。
* 2023-24年の西オーストラリア州雇用者数で女性が多い業界は、医療・社会扶助（78％）、教育・訓練（72％）、小売業（60％）だった。
* 2023-24年の男女雇用者数では、金融・保険サービスと行政・公安が共に男女半々だった。

#### 平均収入および男女賃金格差



Note: Original series. Data is collected for the middle month of the June and December quarters (May and November). Average weekly ordinary time earnings of full‑time adult employees. The gender pay gap for a given point in time is calculated as the difference in the earnings of males and females, divided by male earnings.

Source: Based on ABS data.

* 男女賃金格差は、男性収入に対する男女の収入格差の割合で表現できる。
* 2024年12月には、
* 西オーストラリア州では、常勤の成人の週平均通常時間収入は男性が2,330ドル、女性が1,860ドルで、男女賃金格差は20.2％だった。
* オーストラリアでは、常勤の成人の週平均通常時間収入は男性が2,073ドル、女性が1,826ドルで、男女賃金格差は11.9％だった。
* 女性の平均収入はオーストラリア全体よりも西オーストラリア州が多いものの、西オーストラリア州の男女賃金格差は全国平均を上回っている。西オーストラリア州の男女賃金格差が大きい理由としては、同州の雇用総数に占める鉱業雇用が比較的多いこと、鉱業雇用者数に占める男性の割合が高いこと、鉱業労働者の収入が比較的多いことが挙げられる。
* 西オーストラリア州の男女賃金格差は、2011年4-6月期に28.2％と最高値を記録して以来縮小傾向にあり、オーストラリアの男女賃金格差は2014年10-12月期に18.6％と最高値を記録して以来縮小傾向にある。

### アボリジナル指標

[**目次に戻る**](#_Contents_of_economic)

#### 学歴および雇用1



Note: The left‑hand side chart shows the share of people aged 20-24 who had completed year 12 or equivalent or a non‑school qualification at Certificate III or above. The right‑hand side chart shows the share of people aged 25-64 years who are employed.

Source: Based on ABS Census data.

* 2001-2021年の間に、中等教育12年生かそれに準ずる修了資格、または専門学校のCertificate III以上を取得している20-24才の西オーストラリア州民の割合は、
  + アボリジナルまたはトレス海峡諸島民は、2001年の32.2％から2021年の61.1％へほぼ倍増した。
  + 非先住民は75.5％から90.4％に増加した。
* アボリジナルまたはトレス海峡諸島民と認定され雇用されている25-64才の西オーストラリア州民の割合は、1991年の36.8％から2021年の49.8％へ増加しているが、これは2006年に記録した過去最高の50.4％を下回っている。
* 同期間の、非先住民と認定され雇用されている25-64才の西オーストラリア州民の割合は、68.0％から80.4％に増加している。

#### 業界別雇用者数：2021年国勢調査



Note: Calculation of shares excludes categories 'inadequately described', 'not stated' and 'not applicable'.

Source: Based on ABS Census data.

* アボリジナルまたはトレス海峡諸島民と認定された西オーストラリア州雇用者数では、鉱業が16.7％を占め、次いで医療・社会扶助（13.3％）、教育・訓練（10.6％）であった。
* 西オーストラリア州の雇用者数割合で、アボリジナルおよびトレス海峡諸島民と認定された人々が非先住民を上回る業界は以下の通り。
  + 鉱業（前者16.7％、後者7.7％）
  + 行政・公安（前者9.4％、後者6.2％）
  + 教育・訓練（前者10.6％、後者9.2％）
* 西オーストラリア州の雇用者数割合で、アボリジナルまたはトレス海峡諸島民と認定された人々が非先住民を下回る業界は以下の通り。
  + 専門的・科学技術サービス（前者3.5％、後者7.3％）
  + 製造業（前者3.4％、後者 5.6％）
  + 金融・保険サービス（前者0.8％、後者2.3％）

#### 総個人所得分布（週別）：2021年国勢調査



Note: Calculation of shares excludes categories 'not stated', 'not applicable', ‘negative income’ and ‘nil income’.

Source: Based on ABS Census data.

* 2021年、西オーストラリア州でアボリジナルおよびトレス海峡諸島民と認定されている人々は、非先住民と比較して低所得者層で大幅に割合が高く、高所得者層で割合が低くなっている。
* アボリジナルまたはトレス海峡諸島民と認定されている西オーストラリア州民のうち、
  + 67.0％が総個人所得1,000ドル未満／週（西オーストラリア州非先住民の同割合は50.8％）
  + 10.9％が総個人所得2,000ドル以上／週（西オーストラリア州非先住民の同割合は17.9％）

### 環境

[**目次に戻る**](#_Contents_of_economic)

#### 燃料タイプ別発電量



Note – (a) Coal and oil (included multi-fuel fired power plants prior to 2013-14). (b) Wind, solar, biogas and hydro. Gigawatt hours.

Source: Department of Climate Change, Energy, the Environment and Water.

* 西オーストラリア州の発電量の増加には、2010年代は主に天然ガス発電の伸びが寄与していたが、現在は自然エネルギー発電の増加が著しい。
* 2022-23年の西オーストラリア州の総発電量は44,478ギガワット時（GWh）で、オーストラリア全体の16％を占めた。
* 2022-23年、西オーストラリア州の総発電量のうち16,704GWhが鉱業・製造業用の発電であり、これは、
* 西オーストラリア州の総発電量の38％を占める。
* オーストラリアの鉱業・製造業用の総発電量の65％を占める。
* 2022-23年の天然ガス発電量は27,303GWhで、西オーストラリア州の総発電量の61％に増加した。これは、西オーストラリア州の総発電量に占める天然ガスの割合が最も高くなった2019-20年（62％）をわずかに下回る数値である。
* 2022-23年におけるその他の非再生可能エネルギー（主に石炭）の発電量は9,538GWhで、西オーストラリア州の総発電量の21％を占めた。
* 近年は再生可能エネルギーによる発電量の伸びが著しく、2016-17年の2,998GWhから2022-23年には7,637GWhに増加している。2022-23年には風力（8％）、小規模太陽光（7％）、大規模太陽光（2％）を含む再生可能エネルギー発電が西オーストラリア州の総発電量の17％を占めた。

#### 温室効果ガスの部門別排出量



Note – Mt = million tonnes. Carbon dioxide equivalent AR5.

Source: Department of Climate Change, Energy, the Environment and Water.

* 西オーストラリア州のCO2換算純排出量は、1992年に6,790万トン、2022年に8,250万トンであった。この期間中の西オーストラリア州の純排出量は6,470万トン（1999年）から8,830万トン（2019年）へと推移している。
* 西オーストラリア州における2022年の排出量のうち、
* 8,170万トンがエネルギー
* 970万トンが農業
* 510万トンが工業
* 190万トンが廃棄物からの排出であり、
* 土地利用による隔離は1,590万トンで、排出削減に寄与した。
* エネルギー部門の排出量は、1992年から2022年の間に128％増加した。
* 最も顕著な変動要因は土地利用の役割であり、1992年には土地利用からの排出量が1,640万トンであったが、2022年には土地利用により1,590万トンの排出量削減効果がもたらされた。

#### 州総生産1ドル当たり温室効果ガス排出量の比較



Note – Kilograms of carbon dioxide equivalent per dollar of gross state product (chain volume measures).

Source: Department of Climate Change, Energy, the Environment and Water.

* 西オーストラリア州では、過去30年間に温室効果ガスの総排出量は増加したものの、経済活動における排出原単位は他の州と同様に低下している。
* 1991‐92年から2021‐22年の間に、実質GSP1ドル当たりの二酸化炭素換算キログラムの排出量を尺度とした場合、
* 西オーストラリア州の排出原単位は0.57から0.20へと64％減少した。
* クイーンズランド州の排出原単位は1.04から0.27へと74％減少した。
* ニューサウスウェールズ州の排出原単位は0.46から0.16へと66％減少した。

### 鉱業とエネルギー産業

[**目次に戻る**](#_Contents_of_economic)

#### 世界の鉱物・エネルギー生産：2023年

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| Commodity | WA | Rest of Australia | Rest of World | WA’s global ranking |
| リチウム | 47.5% | 1.4% | 51.1% | 1 |
| ガーネット | 36.1% | 0.0% | 63.9% | 1 |
| 鉄鉱石 | 35.0% | 0.4% | 64.5% | 1 |
| ルチル | 19.3% | 16.5% | 64.2% | 2 |
| ジルコン | 10.8% | 20.4% | 68.7% | 3 |
| アルミナ | 9.3% | 4.4% | 86.3% | 2 |
| レアアース 酸化物 | 7.9% | 0.0% | 92.1% | 4 |
| 金 | 7.0% | 2.6% | 90.3% | 3 |
| 塩 | 4.2% | 0.9% | 94.9% | 6 |
| ニッケル | 4.2% | 0.1% | 95.7% | 6 |
| マンガン | 3.0% | 14.6% | 82.4% | 8 |
| チタン鉄鉱1 | 2.9% | 2.0% | 95.1% | 8 |
| コバルト | 2.3% | 0.0% | 97.7% | 4 |
| 鉛 | 0.8% | 9.6% | 89.5% | >12 |
| 銅 | 0.5% | 3.1% | 96.4% | >13 |
| 亜鉛 | 0.4% | 8.5% | 91.1% | >11 |

Note – Mt = million tonnes. Kt = thousand tonnes. t = tonnes. Mct = million carats. 1 Excludes ilmenite feedstock for synthetic rutile production. Sum of the shares of WA, Rest of Australia and Rest of World may not add to 100% due to rounding.

Source: WA Department of Energy, Mines, Industry Regulation and Safety, Resource Data Files.

* 西オーストラリア州はオーストラリア国内の鉱物・鉱油の主要輸出地であり、高い世界シェアを持つ多数の鉱物・鉱油コモディティの生産地である。
* 西オーストラリア州では、2022-23年に138の輸出向け高付加価鉱業プロジェクトが実施された。
* 16の主要鉱物処理プロジェクト：ボーキサイトをアルミナに、ドーレ（精製前の金のインゴット）を金棒に、（委託処理によって）ニッケル鉱石をニッケル精鉱に、ニッケル鉱石をニッケルマットに、そしてさらにニッケル粉、ニッケルブリケット、硫酸ニッケルに、ルチルと合成ルチルを二酸化チタン顔料に、ジルコンを溶融ジルコンに、珪砂をシリコン金属に、リシア輝石精鉱を水酸化リチウムに、レアアース精鉱をレアアース炭酸塩にそれぞれ加工
* 20のプロジェクト：州のオンショア・オフショア地域の50ヵ所の油田から石油、ガス、コンデンセートを生産

#### 鉱物・エネルギーコモディティ販売

Note – Current prices. Original series. (a) Lithium (spodumene), nickel, cobalt, copper, manganese and rare earths.

(b) Data for lithium (spodumene), manganese and rare earths are not available in certain years.

Source: WA Department of Energy, Mines, Industry Regulation and Safety, Resource Data Files.

* 西オーストラリア州の鉱物・鉱油の販売総額は過去最高を記録した2022-23年の2,560億ドルから2023-24年には2,377億ドルに下落した鉱油は29.4％下落の509億ドル、鉱物は1.6％上昇の1,867億ドル。
* 2023-24年の鉄鉱石の売上高は13.3％上昇して1,420億ドルとなり、過去最高を記録した2020-21年に次ぐ数字となった。この上昇は、生産量（8億6,500万トン）が単一の暦年または会計年度としては過去2番目の高水準となったことおよび豪ドル価格の改善による。
* 2023-24年のLNGの売上高は36.1％下落して365億ドルとなった。これは平均価格の下落と生産量のわずかな減少によるもの。
* 金の売上高も近年大幅に伸びており、2021-22年の174億ドルから2023-24年には207億ドルに増加した。金の価格は2023-24年には1オンス当たり2,000米ドル超という過去最高レベルとなった。
* 2023-24年にはリチウムの販売量は360万トンという過去最高を記録したものの、平均価格がそれを上回るペースで下落したために売上高は61％下落した。2023-24年のリチウムの売上高は比較的高レベルを維持していたが、これは世界的な需要増と西オーストラリア州の輸出能力の拡大により2020-21年から2022-23年で売上高が急増したため。

#### 鉱物・エネルギーコモディティ販売：2023-24年



Note – Current prices. Original series. (a) Spodumene. (b) Garnet, illmenite, leucoxene, zircon and rutile.

Source: WA Department of Energy, Mines, Industry Regulation and Safety, Resource Data Files.

* 鉄鉱石は20223-24年の西オーストラリア州における鉱物・鉱油販売の59.7％を占め、次いでLNG（15.4％）、金（8.7％）の順となった。
* 2023-24年に売上高が最も増加した鉱物・鉱油は以下の通り。
* 鉄鉱石（167億ドル、13.3％増）
* 金（21億ドル、11.3％増）
* 2023-24年に売上高が最も減少した鉱物・鉱油は以下の通り。
* LNG（206億ドル、36.0％減）
* リチウム（131億ドル、61％減）
* ニッケル（18億ドル、32.1％減）

### 一次産業と防衛産業

[**目次に戻る**](#_Contents_of_economic)

#### 農林水産業の粗付加価値（GVA）



Note – Current prices. Original series.

Source: Based on ABS data.

* 西オーストラリア州の農林水産業の粗付加価値（GVA）は、1993‐94年から2023‐24年の間に年平均4.5％増加した。
* 年ごとのGVAの変動には、主要構成産業の生産物（穀物、キャノーラ油など）における生育状況の変動や、農林水産業を構成する輸出コモディティの価格変動が反映されている。
* 2009-10年と2010-11年に西オーストラリア州において農業の寄与度が急降下したのは、サウス・ウエストとウィートベルト地域の干ばつ、州内各地における洪水、世界的な金融危機による農産物価格への影響といった多くの要因によるもの。
* 西オーストラリア州の農林水産業のGVAは、2021-22年に前年度の65億ドルから90億ドルと大幅増となり、続いて2022-23年も99億ドルへと増加した。これは良好な生育条件と他市場からの供給制限が相まって、西オーストラリア州の穀物輸出の需要が高まったことによる。
* 1993-94年から2023-24年までの国内農林水産業のGVAに対する西オーストラリア州の寄与度は平均13.2％で、2013-14年には過去最高の15.9％となった。

#### 農業コモディティの輸出



Note – Current prices. Original series. Total excludes confidential items. (a) Confidential before Aril 2018.

Source: Based on ABS data.

* 農業は長年にわたり西オーストラリア州最大の輸出産業のひとつ。
* 2023-24年の州の農産物輸出トップ4は以下の通り。
* 小麦（47億ドル）
* キャノーラ油（24億ドル）
* 大麦（18億ドル）
* 食肉畜産（14億ドル）
* 2018-19年から2023-24年までに、
* 小麦の輸出額は28億ドル（農産物輸出額の33％）から47億ドル（農産物輸出額の36％）に増加した。
* キャノーラ油の輸出額は7億3,300万ドル（農産物輸出額の9％）から24億ドル（農産物輸出額の18％）へと大幅に増加した。

#### 防衛産業の粗付加価値（GVA）



Note – Current prices. Original series.

Source: Based on ABS data.

* 防衛産業は西オーストラリア州経済の新興産業である。
* 2022‐23年には防衛費によるGVAとして4億6,900万ドルが西オーストラリア州経済に計上された（前年比14％増）。防衛産業の西オーストラリア州経済への寄与度は2016‐17年の2億3,800万ドルから2022‐23年の4億6,900万ドルへとほぼ倍増した。
* 2022‐23年のオーストラリア全体の防衛GVAに占める各管轄区域の割合は以下の通り。
* ニューサウスウェールズ州（34億ドル、32％）
* ビクトリア州（22 億ドル、21％）
* 南オーストラリア州（17億ドル、16％）
* オーストラリア首都特別地域（16億ドル、16％）
* クイーンズランド州（11億ドル、11％）
* 2022-23年、西オーストラリア州の防衛費増に伴い雇用者数も3,000人に増加した。

### 観光業と国際教育

[**目次に戻る**](#_Contents_of_economic)

#### 訪問者の支出



Note – Current prices. Original series.

Source: Tourism Research Australia.

* 新型コロナウイルス感染拡大期の状況は企業や事業内容によって様々だが、観光業全体としては、渡航制限中は国内市場が観光産業全体の活動を支えた。州間移動の再開後は、海外からの観光客が支出した金額がパンデミック前の最高額近くまで戻り、州外および州内の観光客による支出額はパンデミック前の最高額を上回り、観光客による2023年の支出額は過去最高を記録した。しかし、2024年には観光客の総支出は減少した。
* 西オーストラリア州への観光客の2024年の支出額は合計172億ドルで、2023年を2.9％（5億1,400万ドル）下回った。
* 2024年、西オーストラリア州では、
* 州内からの（日帰りを含む）観光客による支出額は3.1％減少し116億ドル
* 州外からの観光客による支出額は12.7％減少し30億ドル
* 海外からの観光客による支出額は12.4％増加し26億ドル
* 2022-23年の西オーストラリア州のGSPに占める観光産業の金額は132億ドルに達し、110,800件の雇用を支援した。

#### 教育関連旅行サービスの輸出(a)



Note – Current prices. Original series. (a) The value of education‑related services exports can include expenditure by international students that is funded from income earned while in Australia.

Source: Based on ABS data.

* 教育関連旅行サービスの輸出額は、国際教育部門の直接的な経済貢献の指標となる。
* 新型コロナウイルス感染拡大の影響を受ける前の2019-20年、教育関連旅行サービス輸出額は21億ドルだったが、感染拡大により新規留学生の受け入れが制限されたため、2019‐20年から2021-22年の間の同輸出額は44％減の12億ドルとなった。
* 2022年初めの州境再開により留学生が戻り、国際教育部門は回復を見せた。西オーストラリア州の教育関連旅行サービス輸出は、2023-24年に過去最高の37億ドルとなった。

#### 留学生の分野別入学者数



Note – Original series. (a) Vocational education and training. (b) English language intensive courses for overseas students. (c) Enabling courses and foundation studies.

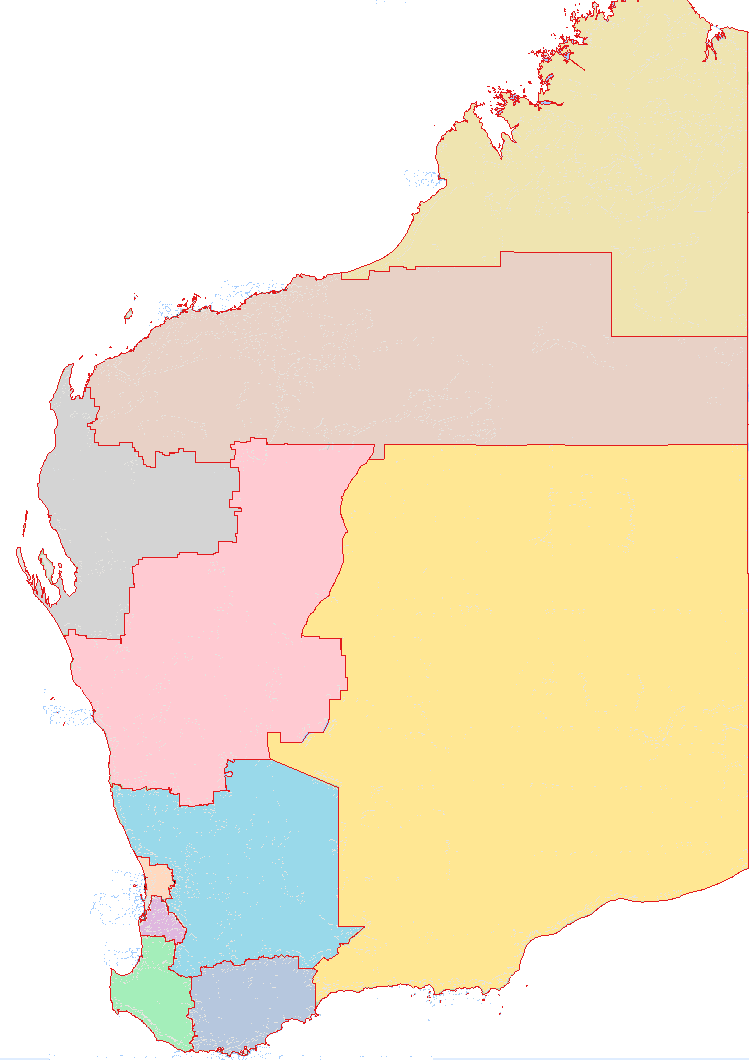
Source: Commonwealth Department of Education.

* 新型コロナウイルス感染拡大期の渡航制限により、留学生の入学者数は2020年と2021年に減少したが、2022年から回復に転じた。2023年の入学者数は60％増、2024年にはさらに26％増となった。
* 2024年の西オーストラリア州の留学生入学者数は90,829人であった。これはオーストラリア全体の留学生入学者数の8.3％に相当し、2006年以降、オーストラリア全体の留学生数に占める西オーストラリア州の留学生の割合としては過去最高となった。
* 西オーストラリア州への留学生の出身国は様々であるが、アジアからの留学生が大半を占める。2024年、西オーストラリア州の教育機関に入学した留学生で最も多いのは以下の国々からの留学生である。
* インド（17.1％）
* ブータン（13.2％）
* 中国（9.4％）
* フィリピン（6.5％）
* パキスタン（6.1％）
* 2024年には、外国人留学生の大多数が高等教育機関（49％）と職業教育・訓練機関（35％）に在籍していた。

### 地域

[**目次に戻る**](#_Contents_of_economic)

#### 地域開発局地域別州総生産、人口、鉱物・鉱油販売



**Mid West**

Busselton

Albany

Geraldton

Broome

Port Hedland

Kalgoorlie-Boulder

Esperance

Bunbury

Karratha

**South West**

**Great Southern**

**Peel**

**Perth**

**Wheatbelt**

**Goldfields-Esperance**

**Gascoyne**

**Offshore Western Australia**

**Pilbara**

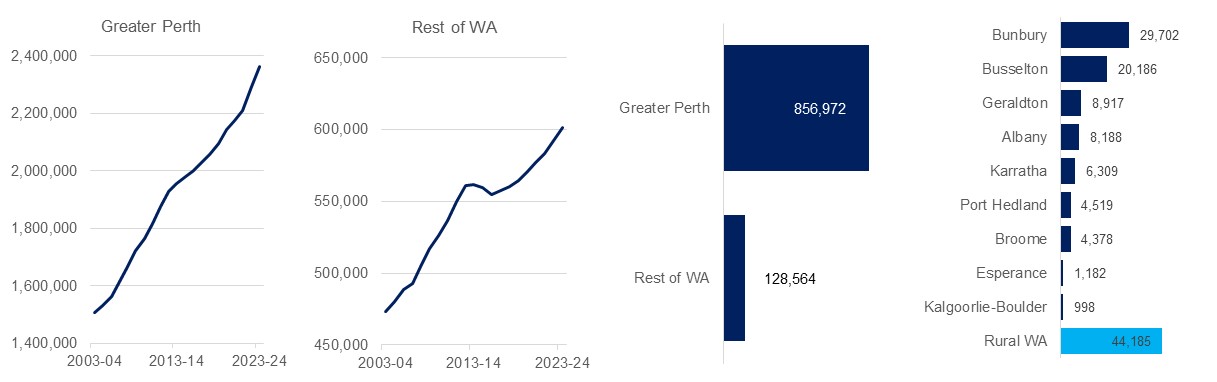
**Kimberley**

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| Region | Gross regional product 2023-24 | | Population 2023‑24 | | Mining sales 2023-24 | |
| $billion | Share (%) | No. | Share (%) | $billion | Share (%) |
| Perth | 288.6 | 63.3 | 2,222,968 | 75.0 | 0.1 | 0.0 |
| Pilbara(a) | 89.3 | 19.6 | 60,746 | 2.0 | 143.7 | 77 |
| South West | 19.5 | 4.3 | 201,659 | 6.8 | 4.2 | 2.3 |
| Goldfields- Esperance | 15.2 | 3.3 | 58,134 | 2.0 | 21.2 | 11.3 |
| Peel | 11.1 | 2.4 | 168,461 | 5.7 | 9.0 | 4.8 |
| Wheatbelt | 9.2 | 2.0 | 78,517 | 2.6 | 2.7 | 1.5 |
| Mid West | 9.0 | 2.0 | 58,127 | 2.0 | 4.6 | 2.5 |
| Great Southern | 5.8 | 1.3 | 66,002 | 2.2 | 0.0 | 0.0 |
| Kimberley | 4.5 | 1.0 | 39,934 | 1.3 | 0.9 | 0.5 |
| Gascoyne | 1.4 | 0.3 | 10,530 | 0.4 | 0.3 | 0.2 |
| WA total(b) | 455.7 | 100.0 | 2,965,078 | 100.0 | 186.7 | 100.0 |

Note – Original series. Estimated resident population. (a) Includes Offshore Western Australia for mining sales. (b) Components do not sum to the total.

Source: WA Department of Primary Industries and Regional Development, Remplan; based on ABS data; and WA Department of Energy, Mines, Industry Regulation and Safety.

#### 広域地域および主要都市中心部別の人口増加：2003-04年から2023-24年



Original series Estimated resident population. Vertical axis does not start at zero.

Source: Based on ABS data

西オーストラリア州の人口の大部分がパース都市圏に集中しており、州総生産もパースが最大のシェアを占めるが、州の商品輸出と経済活動のほとんどは地方での生産に由来する。鉱業生産はほとんどの地域で行われているが、特にピルバラが鉄鉱石と液化天然ガスの主要な鉱業地帯となっている。

西オーストラリア州地域の経済に関する詳細情報およびデータは、以下のリンク先に掲載されている。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| [**ガスコイン**](https://www.gdc.wa.gov.au/) | [**キンバリー**](https://www.kdc.wa.gov.au/) | [**ピルバラ**](https://www.pdc.wa.gov.au/) |
| [**ゴールドフィールズ・エスペランス**](https://www.gedc.wa.gov.au/) | [**ミッド・ウエスト**](https://www.mwdc.wa.gov.au/) | [**サウス・ウエスト**](https://www.swdc.wa.gov.au/) |
| [**グレート・サザン**](https://gsdc.wa.gov.au/) | [**ピール**](https://www.peel.wa.gov.au/) | [**ウィートベルト**](https://www.wheatbelt.wa.gov.au/) |

西オーストラリア州の経済、貿易関係、主要輸出産業に関する詳しい情報は、[西オーストラリア州の経済と国際貿易（www.wa.gov.au）](https://www.wa.gov.au/government/publications/western-australias-economy-and-international-trade)参照。

|  |  |
| --- | --- |
| **西オーストラリア州における貿易の統計データ** | **西オーストラリア州における鉄鉱石の統計データ** |
| **西オーストラリア州におけるLNGの統計データ** | **西オーストラリア州におけるバッテリーと**  **クリティカルミネラルの統計データ** |

これらの資料に関するお問い合わせやご意見は[**economic.analysis@jtsi.wa.gov.au**](mailto:economic.analysis@jtsi.wa.gov.au)までお寄せください。